

# こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

2月

No.128

特集 P2・3

2015年  
改正介護保険制度のあらまし①

## 介護予防が変わります



ひ孫と  
いっしょ

シリーズ127

千種町 河内

はやし ひでこ  
林 秀子さん(85歳)

○ひなたちゃん(1歳)  
はやし あつし くみこ  
林 敦志さん・久美子さん  
■長女

# 介護予防が変わります

## 社会参加が介護予防に

昨年4月に介護保険制度が改正されました。2月号と3月号では、改正された介護保険制度の中で、とくに介護予防事業と新しい総合事業についてシリーズで考えます。

2015年  
改正介護保険制度  
あらまし①

## 2015年制度改正のポイント

改正された介護保険制度の主な内容は、次の2点です。① **地域包括ケアシステムの構築**（高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにするため、介護、医療、生活支援、介護予防を充実させる）② **費用負担の公平化**（低所得者の保険料軽減を拡充。保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直す）

このうち地域包括ケアシステムの構築では、今回は① **在宅医療・介護連携の推進**② **認知症施策の推進**③ **地域ケア会議の推進**④ **生活支援サービスの充実・強化**が強調されました。

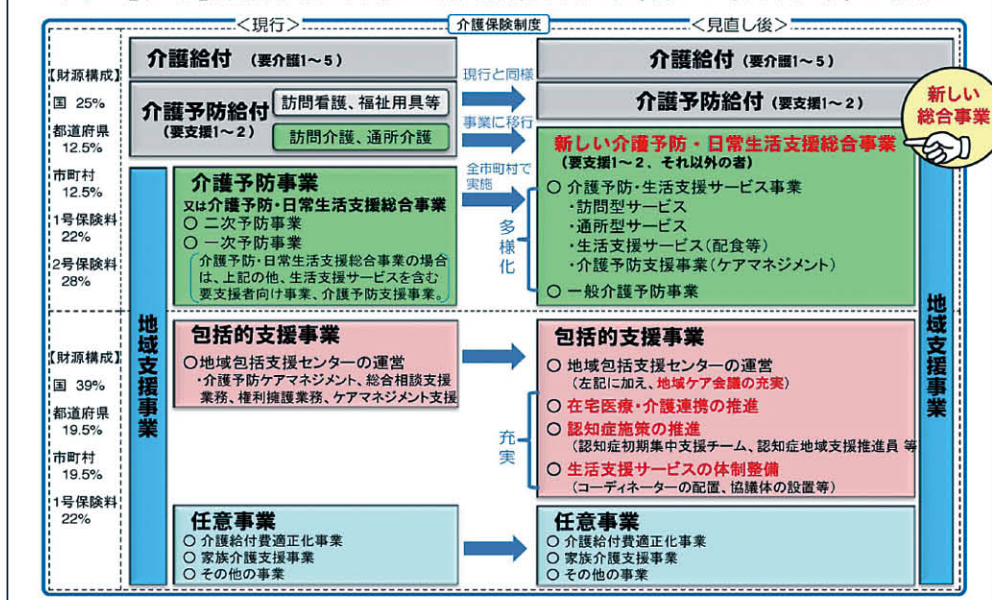
また、要支援1・2の方の訪問介護と通所介護は、市町村が取り組む地域支援事業に移行し、多様化されることになりました。しかし、要支援の方であっても状態によっては、引き続きサービス利用ができます。

さらに、特別養護老人ホームの新規入所者を、原則、要介護3以上に限定（既入所者は除く。要介護1・2でも一定の場合には入所可能）低所得者の保険料軽減を拡充。

また、保険料上昇をできる限り抑えるため、所得や資産のある人の利用者負担を見直すこととなり、一律に1割だったものが、所得により2割負担とすることになりました。（負担の公平性）

特に今回の制度改正は、次に述べる介護予防について、大きな変更がありました。今後は、1次予防事業と2次予防事業の垣根が取り除かれます。これは地域で継続して暮らし

図2.【参考】介護予防・日常生活支援総合事業（新しい総合事業）の構成



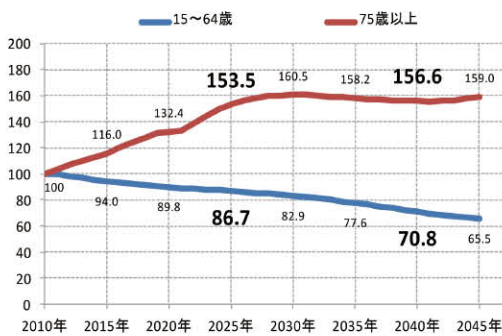
「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン」厚生労働省 2015.6.5 に一部編集

## 2025年を見据えた 制度改正です

この制度改正は、2025年を見据えたもので、団塊の世代が75歳となり、後期高齢者人口は2179万人。認知症高齢者が700万人。単独世帯や夫婦のみ世帯が1346万世帯となることから、現状の制度では支えきれなくなること。そして、介護保険料が月8000円以上となることが予想され、さらには、介護人材の不足も深刻化することなどの社会的状況を考慮しての改正です。

重度の要介護状態となつても  
住み慣れた地域で自分らしい暮

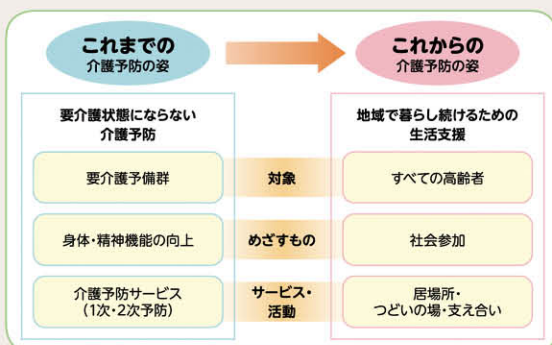
### <生産年齢人口の減少と後期高齢者>



出所)国立社会保障人口問題研究所のデータをもとに  
三菱UFJリサーチ&コンサルティングが作成  
※2010年を100とした場合の2045年までの推計値

らしが出来るための仕組みである地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療や介護サービスの強化や連携が必要なのは当然ですが、調理、買い物、掃除などの生活支援サービスの確保や介護予防をいかにして効果的なものにしていくのかが大きな課題です。

このことは、増加する介護等ニーズへの対応と生産年齢人口の減少という、二つの困難な条件のもとに進められなければならないわけで、その意味で今回の制度改正は、とても大きな改正と言えます。



『生活支援コーディネーターと協議体』CLC発行から転載

## 介護予防は、地域づくり

こういう状況を受け、自治体では、地域包括ケアシステムの構築に向けて、平成27年度から主に、次の4つの事業が展開されています。「介護予防・日常生活支援総合事業(総合事業)」、「生活支援体制整備事業(体制整備事業)」、「在宅医療・介護連携推進事業」、「認知症総合支援事業」です。

これらの中で特に、生活支援や介護予防に大きく関係するのは、要支援に相当する比較的軽度の高齢者を対象とした総合事業と、地域全体の生活支援体制の強化を目指す体制整備事業です。

これらの事業は、平成29年度末までの3年間の間に実施することとされており、兵庫県では平成29年度末までに行われる予定です。

これまでの介護予防では、要介護状態にならないよう予防するという点が強調されていましたが、これからは、高齢者の生活基盤をどう継続性のあるもの

にしていくのかという視点でとらえていくことが大切です。

生活基盤である地域をどうしていくのか、地域づくりをどうしていくのか、人と人とのつながりをどうしていくのかという問題意識のもとに介護保険の財源が使われていくとみえることができます。

要支援1・2の方への対応という狭い範囲で、今回の介護保険制度改正をとらえるのではなく、例えば、社会参加することが介護予防につながるというように積極的にとらえ、高齢者のみなさんが、自分たちの思いを実現できる「集いの場」や「居場所」をいかに地域の中にたくさん創っていくのが重要です。

つまり、元気な高齢者の方も支援が必要な方も共に地域づくりという視点で取り組んでいくことが大切です。

介護予防は、要介護状態にならない取り組みから、地域で暮らし続けるための生活支援へと変わっていきます。(次号へ続く)

やさしさ

## 日頃からつながりを大切に!

### 山崎高校生活創造科2年生

1月29日(金)、山崎高校の生活創造科2年生が、加生自治会の高齢者世帯の方々35人を学校へ招き、防災をテーマにした交流会を開催しました。

この交流会は、昨年10月から防災学習の一環で、生徒たちが高齢者世帯52戸を訪問し、防災意識や避難経路などを調査する中で、ふれあう機会が増えたことがきっかけとなり開かれたものです。

また、3年前から同校と自治会は、共同で防災訓練に取り組んでいます。

交流会当日は、生徒たちの防災学習の発表や災害時に役立つ非常食を作って試食をしたり、輪投げ等が行われました。

参加者からは「道で会ったみたいで楽しみ」、生徒からは「いろんな話を聞かせてもらえるし顔



生徒30人と参加者が非常食や保存食を試食し交流(山崎高校)

を覚えてもらってうれしい」「元気な姿が見えると安心する」など、お互いを気にかける「つながり」が生まれています。

日頃から顔なじみとなり、声をかけ合う関係をつくること  
が大切です。それが、災害時には役立つことになります。  
(山崎支部 森井裕矢)

いのちのみや

## 新年会でなつかしの写真 上映会

### 東市場老人クラブ

1月19日(火)、東市場老人クラブの新年会が開催され75人が参加しました。

今年は、新年のお祝いの場をさらに盛り上げようと昔なつかしい写真の上映会を行いました。

昨年11月から、役員が会員に声をかけをし、大正から平成の東市場の風景や地域行事などの写真130点が集まりました。

会場に設置されたスクリーンに写真が映され、当日は食事をしながら、当時の暮らしを懐かしく語りあいました。

「この写真は東市場の財産。地域全体で使ってほしい」と会長の本末男さん。集まった写真は自治会にも相談しながら、ふれあいサロン



集いの場に参加することは、いきいきと過ごす秘訣です(東市場公民館)

や喫茶などの交流の場で展示されるようです。これからの地域づくりは、老人クラブや退職世代のみなさんがこれまで培われた知識や経験を地域で生かしていただくことが大切になっていきます。

年をとっても、誰もが地域の集いの場に参加し、活躍できる、地域づくりをいっしょに進めていきましょう。  
(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

当時、小学生のみなさん。現在もお元気です(昭和30年代)

は  
が

## 地域のつながりが広がる拠点

おふくろ工房波賀・のはら

1月16日(土)、  
レストラン「おふくろ  
工房波賀・のはら」が今年最初の営  
業を行いました。

これまでは、地域  
を盛り上げようと波  
賀町内の女性12人が  
集まり、イベントな  
どで手作りの巻き寿  
司を調理販売してき  
ました。

そんな中、野尻幼

稚園の休園に  
ともない、思

い出の園舎を  
活用して地域

を元気にしよ  
うと、昨年の

11月長年の夢であった活  
動拠点として「おふくろ

工房波賀・のはら」が誕  
生しました。

来店された方からは、  
「ここに車が止まってい  
るのを見るとにぎやかで  
嬉しい」「わしはここ  
の応援隊やで毎回来るん  
や」との声が聞かれまし  
た。



土曜日(モーニング)と日曜日(ランチ)が営業日。  
ランチの「巻き寿司」は人気メニューです(波賀町野尻)

代表の可藤愛子さんは、

「来た人同士が会って、つ  
ながり広がるのがこの良  
さ。今後は北部域の方へお弁  
当の配達もできたら」と夢を  
語ります。

地域のみなさんが関わり、  
関心を持つことで、地域全体  
が元気になる、住民の安心に  
つながります。新たに誕生し  
た拠点のこれからの活動に目  
が離れません。

(波賀支部 平有利菜)

ち  
くさ

## 配食サービス週2回実施に向けて

千種支部配食サービス運営委員会

千種支部では、平成2年か  
ら配食サービスが始まり、毎週  
火曜日と第3木曜日にお弁当を  
届けています。

昨年7月から利用者への聞  
き取りを行うなかで「1食でも  
多くお弁当をとりたい」という  
声がありました。

これを受けて、調理・配食  
ボランティアのみなさんと配食  
サービスの実施回数について話  
し合いを重ね、「調理の日が1、  
2回は増えてもええで。新しい  
グループができたらええな」な  
どの声が聞かれました。

1月27日(水)、千種保健福  
祉センターで配食サービス運営  
委員会を開催し、千種支部での  
配食サービス週2回実施に向け  
て協議しました。

経過として、1月に調理グ  
ループが新たにできたことを報  
告し、利用者代表の阿曾嘉信委  
員からは「作るの大変だと思  
うがお願いしたい」と実施に向  
けた前向きな意見をいただくな



各支部の運営委員会は、利用者、調理・配食ボランティア、社協理事  
や保健師などのメンバーで構成しています(千種保健福祉センター)

ど、一定の見通しが立ちました。  
定期的に届けることで、見  
守りにもつながる配食サービ  
ス。4月からの週2回実施に向  
けて、さらに準備を進めていき  
ます。

(千種支部 小原志のぶ)

## 配食サービス(調理・配食)

### ボランティア募集!!

ぼらんちゃん



配食サービスは、一人暮らし高齢者、高齢者世帯等の食生活の支援と安否確認を目的として、ボランティアさん手作りの弁当をお届けしています。

火曜日・金曜日  
8時30分～11時

月曜日・第2、4木曜日  
10時～15時

一宮

山崎



波賀

千種

火曜日8時30分～11時  
金曜日13時～16時

火曜日・第3木曜日  
13時～15時

住民同士で支え合うボランティア活動として、みなさまのご協力をお願いいたします。

## 個人でも、家でも気軽にできる 古切手の整理ボランティア募集!

みなさんからお寄せいただいた古切手・プリペイドカード・ベルマーク等の整理をしていただけのボランティアを募集します。家でもできるボランティア活動です。

活動にご協力いただける方は、各支部までご連絡下さい。



古切手の整理をされている収集ボランティア「マイルドマザーズ(二宮)」

### 〈古切手等の行き先〉

「誕生日ありがとう運動本部」(神戸市)へ届け、しおり等によみがえり、その売上金は知力ハンディキャップの問題の社会啓発資金となります。

## 阪神淡路大震災を風化させないために ～震災から21年～

1月17日(日)、阪神淡路大震災を風化させず新しい世代へ語り継ぐため、「神戸市」「宍粟市」で様々な追悼行事が行われ、多くの方々に参加・協力いただきました。

### 神戸 1.17ひょうご メモリアルウォークへ参加



三宮東遊園地(神戸市)

### 宍粟 4会場で追悼行事を実施



メイプル福祉センター  
(波賀町安賀)

神戸市で開催された1.17ひょうごメモリアルウォーク2016へ宍粟から45人が参加しました。

三宮東遊園地では竹筒を並べ追悼し慰霊と復興モニュメントに献花、ゴール地点のHAT神戸では1.17のつどい(式典)が行われるなど、参加者はそれぞれの想いを胸に神戸の街を歩き、イベントに参加しました。

また、宍粟市では宍粟市ボランティア連絡会が中心となり、市社協各支部で追悼行事を行い、震災でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りしました。

### メモリアルウォーク参加者の声

- ・21年前を思いながら5kmを歩くことができました。このような行事を続けていける事は素晴らしいことだと思います。もし災害があったら自分にできることがあれば、小さなことでも協力、支援していきたいと思いました。(60代女性)
- ・当時TVで見ただけですが、被災された方たちの気持ちを思うと胸がつまる思いでした。この気持ちを忘れないためにも今日参加してよかったです。(50代女性)
- ・21年経った今もたくさんの方が来られているのに驚いたと同時に忘れてはいけないなと思いました。(50代女性)
- ・これからは孫や子に震災の恐ろしさを伝えていかなくてはと思いました。(70代女性)